

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ・知性を磨き、社会の進展に対応できる力を育てる。
- ・自他尊重の精神と情操豊かな心を育てる。
- ・健全な心身と未来を拓くたくましい力を育てる。

2 学校の特徴

- ・5学科各学年5～6クラスの総合制高校として魅力ある教育活動が展開できるよう、各学科の特性や生徒の実態等を踏まえ、一人ひとりの自己実現をめざした教育活動を推進しています。
- ・地域との結びつきがきわめて強い氷見市で唯一の高校です。生徒の気質は明るく素直で、学習や部活動、生徒会活動をはじめ学校生活全般にわたって、ひたむきに一所懸命に取り組む校風があります。
- ・普通科では、ほとんどの生徒が国公立大学を主とした四年制大学等、進学を目指しており、2年次より文理探究コース、理系、文系の類型別授業を編成しています。基礎重視の授業と個別面談をもとに、生徒個々の興味・関心や進路希望等に応じた学習活動の充実に取り組んでいます。
- ・専門学科は、農業科学科(20名)・海洋科学科(20名)、ビジネス科(40名)、生活福祉科(40名)の3学級で構成しており、基礎学力の向上とともに、体験的学習や資格取得などを通して、進路実現に向けた知識・技術の習得に取り組んでいます。
- ・令和2年度より3年間、文部科学省から特例校の指定を受け、地域との協働による高等学校教育改革に取り組んできました。1年次「未来講座 HIMI 学」では、氷見を中心とするフィールドワーク等をおして知識や体験を増やし、物事を探究する姿勢や学ぶ力を育成する課題解決型の探究学習を実践しています。2学年普通科では、学校設定科目「シチズンシップ」において、1年次の活動を下地に地域課題を設定し、方策をまとめて発信する取り組みを行っています。また、進路実現をサポートする「キャリア教育」の推進、各学科の枠を越えて将来への広い視野のために科目選択ができる「総合選択制」の導入など、特色ある教育活動を推進しています。
- ・『文武両道』の校風を大切に、学習と部活動の両立に努めています。部活動では幾多の全国制覇の経験がある男子ハンドボール部をはじめとして、野球部、自転車競技部、女子ハンドボール部やその他多くの運動部、文化部が輝かしい成果を上げています。一方、生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、学校全体として主体的で協働的な学習指導及び進路指導体制を整え、生徒の学習意欲の向上を図ることが求められています。また、生活面においては、生徒の社会性や規範意識を醸成し、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりを進める必要があります。

3 学校の現状と課題

本校は5学科を有する総合制高校です。各学科の生徒は経験、技能、専門性、意欲等において、多様な価値観を有しており、協働した学びの中で互いを高め合う可能性に満ちています。学校全体としても、新たな価値を創造する大きな可能性があり、それらの可能性を最大限に活かすため、スクールポリシーで「育成を目指す資質・能力」を以下のように定めています。

- (1) 自育する力（社会に有為な自己像を設定して、現状の自分を省察し、たゆまず学び続ける人物）
- (2) 連携する力（他者理解と尊重に努め、目的達成のための自分の役割を意識して協働できる人物）
- (3) 探究する力（自分を取り巻く社会を愛し貢献を果たす態度と、問題解決の手法を身につけた人物）

また、学校課題として以下の3点を挙げ、重点目標を設定し、学校経営に取り組みます。・生徒一人ひとりの個々の能力と適性に応じた個別最適な学び、他者理解と尊重に努めながらの協働した学びの中で、知性を磨く学習指導、個に応じた進路指導はどうあるべきか。・基礎基本を確実に習得しつつ各学科の専門性を深化させ、さらに学科間の横断的な学びと生徒の連携、協力を促す機会を設定するにはどうあるべきか。・自分を取り巻く社会を愛し貢献を果たす態度と、問題解決の手法を身につけた人物を探究的な活動をおして、どのように育成すべきか。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	<p>① 生徒の学習意欲を高め、主体的な学びへの意欲を向上させるためにICT機器を有効活用する姿勢を育む。また、教職員がICT機器の有効性を一層学び、より活用範囲を広げつつ、主体的な学びの充実を図る。</p> <p>② 地域と学校が協働した学びをとおして地域に開かれた学校を目指しつつ、探究学習の価値を学習へのモチベーションに繋げる方策を探る。</p>
		計画	<p>① <u>Google classroom、スタディーサプリ、Classiなどの教育アプリケーションを生徒、教職員が一体となってその価値を最大限に活用し、学習の意欲向上に繋げるよう努める。</u></p> <p>② <u>教職員がICT機器を使用することで、新しい学力観の向上に繋がる価値を発見できるよう努め、互見授業を通して研鑽し合うことで授業改善を進める。</u></p> <p>③ <u>地域協働学習や外部講師を招いての探究学習で、生徒の学習へのモチベーションが高まるよう教職員が学ぶ体制を構築する。</u></p> <p>④ <u>「地域協働学習」を通して「地域と一体となった学校づくり」を推進し地域との協働体制の拡充に努める。生徒が地域をフィールドに学び、地域の方々と共に課題発見、解決に向けて努力することで地域づくりに関わる。また、この取り組みを通して、地域人材を育成するカリキュラム開発と実践を行い、地域創生に主体的に携わる人材の育成を図る。</u></p>
2	学校生活	目標	<p>① 基本的な生活習慣を自主的に身に付けるとともに、社会的責任と役割を自覚して、自律した行動ができる人間に育てる。</p> <p>② 心身の健康保持・増進に関する理解と関心を深め、自己有用感を持って有意義な学校生活を営む態度を育成する。</p> <p>③ 環境への配慮の意識や美化意識の向上を図り実践する態度を養う。</p>
		計画	<p>① <u>県下一斉に実施される「さわやか運動」や本校の「氷高さわやかディ」を通じた挨拶の励行や遅刻防止、交通・乗車マナーを守ることや服装を整えることなどの基本的な生活習慣を、校風委員による呼びかけ等、生徒相互のチェック機能を働かせながら、身に付けさせる。</u></p> <p>② <u>「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。いじめ撲滅や人間関係に関する悩み、問題行動を早期に把握し、各学年や保健厚生部と連携し、生徒との信頼関係に基づく対応を推進する。</u></p> <p>③ 生徒の心身不調の原因を早期に発見し、スクールカウンセラーや巡回指導員等との相談および各学年や保護者等とも適切に連携を図り対応する。</p> <p>④ <u>歯科治療率アップへの取り組みを通して、健康を大切にする意識の高揚を目指す。</u></p>
3	進路支援	目標	<p>① 進路実現の手立てについて、生徒の理解と主体的な行動を促進し、生徒自身が主体的に自らの将来に希望を持てる企画に取り組む。</p> <p>② 進路関連行事や個人面接等の充実と進路意識の高揚に向けての取組を</p>

			<p>充実させる。</p> <p>③ 自己の生き方を考え、職業観を踏まえた進路設計を立てさせる。</p>
		計画	<p>① <u>教員間で進路情報の共有を深めて面接内容の充実を図ることに加え、生徒個々の進路目標に照らし学習面での到達度を生徒が確認できるシステムの再整備を進める。</u></p> <p>② <u>学年間の連携を密にし、3年間を見通した継続的・計画的な進路指導体制の確立を図る。また個人面接や進路に関するHRを充実させ、生徒の進路意識が明確になるよう適切な進路指導を行う。</u></p> <p>③ <u>就職指導については、2学年の専門学科が一斉に行うインターンシップに取り組むとともに、3学年については、求人票に基づく企業研究や会社訪問等を通して職業観や勤労意欲を持たせる。</u></p>
4	特別活動	目標	<p>① 学校行事、部活動、ボランティア活動等への積極的な参加を通して自主性・積極性・思いやりの心を育てる。</p> <p>② 諸行事の企画や運営を通して集団の一員としての自覚を高め、たくましく生きる力と好ましい人間関係を備えた生徒を育てる。</p>
		計画	<p>① <u>コロナ禍の行動制限緩和により、生徒が積極的に学校行事に参加できるよう、生徒会が中心となって生徒と教職員の意見や要望を集約し、行事の内容を一層充実させる。</u></p> <p>② <u>限られた時間を有効に活用し、休養日を含めたメリハリのある部活動の取り組みを目指しながら、人間性の向上を図るよう意識づける。</u></p> <p>③ <u>ボランティア推進委員会を中心に、各専門学科クラブ、部活動と連携して、SDGsを意識し、生徒の主体性に基づいて、身近で今できるボランティア活動を推進する。</u></p>
5	その他	目標	<p>① 本校の様々な教育活動に対して保護者や地域の理解を得るよう努め、連携して生徒の育成を図る。</p> <p>② 適切な情報発信力の育成及び情報共有手段の活用を図る。</p>
		計画	<p>① <u>地域と連携した活動への参加を積極的に進める一方、PTA参加行事の内容をより保護者の関心が高いものとなるよう検討することでより多くの方々の学校行事等への参加を目指すことを旨とする。</u> <u>ただし、本年度は新型コロナウイルス感染防止対策を十分に取って実施する。また、不参加の保護者には、資料だけでなく、活動報告や意見、質問事項なども追加して配布する。</u></p> <p>② 情報機器の適切で安全な利用について、情報モラルの育成を図る。</p> <p>③ <u>「氷高ほっとメール(教育安全メール)」に対する保護者満足度の向上を図る。リアルタイムに情報発信を発信し、一斉メール以外に学年や学科に特化した情報の配信を通して、家庭に情報を伝えることで、協力体制のさらなる充実を図る。</u></p>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 氷見高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動（生徒の主体的な学び）
重点課題	I C T活用と地域協働学習による主体的な学びの深化
現 状	<p>(1) I C T活用の推進 Society5.0の時代において求められる資質・能力の向上のため、I C Tの環境整備が進められ、学校では教員・生徒一人一台のタブレットが貸与されている。I C Tの活用は生徒の「興味・関心を高める」「課題を明確につかむことができる」「図や写真の提示により理解が深まる」「知識の定着が図られる」などの多くのメリットがある。このことから、現在、教育のあらゆる場面においてI C Tを効果的に活用していくことが求められている。しかし、授業での活用の現状として、指導用P Cのプロジェクタへの拡大提示は多数行われているが生徒のタブレット活用は、一部の授業にとどまっている。I C Tを用いた協働的な学習や家庭学習における積極的な活用もさらにすすめていきたい。そのためにも、教員側のスキルアップを図り、I C Tを活用するスタイルへと積極的に授業改善を行う必要がある。</p> <p>(2) 地域協働学習について 本校では令和2年度より、1年次は「未来講座HIMI学」、2年次は「シチズンシップ」で、氷見市や関係機関及び民間事業者の多くの支援のもと、地域協働学習をすすめている。学習指導要領が目指す「生きる力を育む」「学び方を学ぶ」ことを目指し、コンピテンシー(資質・能力)を育成し、社会の変化に対応できる力を身につけさせることをねらいとしている。また、地域と学校が連携することで「本格的な学びの場」を生徒に提供し、協働による学びのシステムを構築しながら地域に開かれた学校づくりを推進し、学校の魅力化につなげようとしている。</p>
達成目標	<p>(1) ①生徒の学習でのI C T活用頻度が高まり、より主体的な学びにつながったと感じた生徒の割合を増加させる。 ②教員のI C Tを用いた授業頻度を高める。</p> <p>(2) ①地域協働学習により、学びのモチベーションが高まったという生徒の割合・・・80% ②地域協働学習を支援した講師等、地域の方が、生徒の主体性や協調性などの変化を実感できた割合・・・80%</p>
方 策	<p>(1) ・年2回実施している互研授業週間において、ICTを活用した授業を積極的に参観することで、授業改善を全教員で行う。また、教員のスキルアップのための研修を行うことで、授業での活用頻度を増やしていく。 ・教育クラウドサービスによる課題提示や個別最適な学びに向けたデジタル副教材の活用により、生徒が日常的にICTを利用し、家庭においても能動的に学習を進める習慣づくりを行う。</p> <p>(2) ・学校と地域が一体となって持続可能な学びのしくみを構築する。地域協働学習を通して生徒の積極性と探究心を引き出し、学びへの意欲を高められるよう教師と外部人材の連携による効果的な指導を行う。 ・「地域の探究実践者と語る」・・・探究とは何かについて大人の実践から理解すると共に地域社会の事象について関心を持つきっかけにする。 ・「フィールドワーク」・・・調べ学習に終わらないよう、実際に地域に出て、地域を知る。 ・「HIMI学講演会」・・・探究学習と学びとの関連についての講演を聞き、探究学習や日々の学習のモチベーションを高める。 ・「HIMI学発表会」・・・これまでの気づきや発見、自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現することで、これまでの学びに深く関わってきたことを実感する。</p>

令和5年度 氷見高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）		
重点課題	「誇りに思える氷見高校社会」「安心して過ごせる氷見高校社会」の構築に向けての社会観と健康を大切にする意識の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやかな挨拶を交し合える学校を目指し、定期的に「あいさつ運動」を行っているが、挨拶の価値を心から意識して行う生徒はまだ少ない。また、制服の着こなしや校内における携帯電話の取り扱いに関しても、一部には意識の低い生徒が見られる。「誇りに思える氷見高校社会」を創造することで、自己有用感を持って学校生活を送ることができるようにする必要がある。 ・人間関係における不安や悩みは、常に注視すべきことである。「安心して過ごせる氷見高校社会」を生徒と一体となって創造するという視点で、向上に邁進する学校生活を安定して送ることができるようにする必要がある。 ・一般的に高校へ入学すると、健康診断結果による治療よりも部活動を優先してしまったり、受験時期に治療のタイミングを逃してしまったりするなど健康管理が疎かになる傾向があるため、自立的な健康管理の意識付けを行う必要がある。特に、歯科検診では、本人が不調を感じていない場合に受診せずに済ませてしまい、治療率が向上しない現状がある。 		
達成目標	① 挨拶・服装・交通マナー・携帯電話の取り扱い等の規範意識の向上	② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校社会」に関する意識の向上	③ 歯科治療率アップのための働きかけ
	生徒意識調査における挨拶や服装等に係る意識率 95%以上	生徒意識調査における「安心して過ごせる氷見高校社会」の創造に対する意識率 100%	歯科治療率 50%以上
方 策	<p>① 「誇りに思える氷見高校社会」をキーワードに、県下一斉による年1回の「さわやか運動」、本校独自による年6回の「氷高さわやかデイ」の取り組みにおいて、挨拶の意義を事前指導し、挨拶の価値を意識させながら実施する。また、生徒会執行部や校風委員及び交通委員が中心となって取り組ませることで、生徒の主体性に基づく、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「校内における携帯電話の取り扱いについて」など社会的マナーの向上に努める。</p> <p>② 「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。具体的には、集会等で「命の尊重」を訴えるとともに、学期ごとに「被害調査」によるアンケートを実施することで、人間関係に関する悩みや問題行動を早期に把握する。さらに、得た情報をもとに、迅速かつ周到に対応する体制を構築する。</p>		<p>③ ・保護者会の際に歯科治療カードを再度配布し、長期休業中などに治療するように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスごとの治療率に差が生じるため、状況を集約して担任にも知らせ、個々の生徒に必要な性を確認し、指導する。 ・歯の健康に関する掲示物などを作成し、治療を促す。 ・部活動の大会などが少ない時期を見計らう。また、3年生には大学入試に向けた年間計画を見据えて、タイミングよく治療を促す。

令和5年度 氷見高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（生徒の進路実現に向けた進路指導）	
重点課題	進路意識・知識の強化と組織的な進路指導力向上の取り組み	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現の過程は複雑であり、職業や上級学校についての理解度や、進路決定の方策（入学試験、就職試験など）に対する基礎的、基本的な知識量に課題がある。進路学習等、進路実現に向けた生徒の主体的な活動ペースを向上させる必要がある。昨年度進路指導部から取組に対する適切な助言ができなかったため、オープンキャンパスへの参加率が低かった。 ・1～2学年の全体的な進路学習の機会は、タイトなスケジュールの中で限られている。生徒自身が進路について継続的に考え、職業や「なりたい自分」について話をする雰囲気を醸成する必要がある。高い志を持って進路実現に挑戦する生徒を育成する体制強化が重要であり、面接指導やホームルームの活用が求められる。 ・3学年は、9月の就職試験から3月の国公立大学後期日程まで7か月にわたる多様な受験を指導・サポートする。5学科それぞれの特性と個々の生徒が培ってきた様々な学力が、進路選択と受験にメリットとなるよう、学年、教科、各部署との連携をより密にする必要がある。 ・面談技術や受験情報の収集・提示方法、保護者との連携など、進路指導のノウハウを蓄積・向上させる体制の充実を図る必要がある。 	
達成目標	① 進路実現の手立てについて、生徒の理解と主体的な行動の促進	② 進路関連行事や個人面接等の充実と進路意識の高揚
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事以外の大学等見学、企業見学やオープンキャンパスへの参加率（オンライン参加含む） 1 学年＝30%以上、2 学年＝50%以上 3 学年＝75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路統一ホームルームや大学等見学の満足度 70%以上 ・生徒が感じる面接等の満足度 80%以上
	③ 進路希望の実現（第3学年 進学希望者）	④ 進路希望の実現（第3学年 就職希望者）
	<ul style="list-style-type: none"> ・3年9月進路希望調査(校種)に対し 普通科：第一志望達成率 80% 専門学科：第一志望達成率 90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者の就職内定率 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習と進路の手立てを知る機会を設けるなど、各学年に応じた計画的な進路指導を行うことで、早期に自己の適性の理解及び将来設計を具体化させ、意欲的に学習ができるように指導する。 ・進路に関するホームルームを実施し、より効果的な系統指導プログラムを作成して、学年全体での計画的な指導体制の共有化を図る（進路統一ホームルームを年3回程度実施） ・各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。 1 年次・・・「進路講話」「職業人から学ぶ」「文理選択」「進路ガイダンス」「卒業生と語る会」他 2 年次・・・「大学等見学」「修学旅行（班別研修）」「学部学科の研究」「卒業生と語る会」「インターンシップ」他 3 年次・・・「大学見学」（普通科）「進路ガイダンス」「オープンキャンパス」「就職説明会」「企業見学」「進学検討会」他 ・「面接重点期間」をおおむね学期ごとに設定し、複数教員で情報共有を図る体制を推奨、実践する。 ・学力と進路情報について校内ネットワークを利用し、教員間で共有する。生徒への情報提供やアンケート調査等を行うとともに保護者への情報提供をより進める。 	

令和5年度 氷見高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動		
重点課題	コロナの行動制限緩和による学校行事・部活動及び地域連携活動の活性化		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事は、コロナの行動制限緩和により、行動制限前の内容での実施が予想される。生徒中心で、参加意識や達成感を感じることができるよう企画・運営を、生徒会執行部や生徒の意見を取り入れながら実施したい。 部活動は、全校生徒の約85%が加入しており、生徒の自己肯定感の向上に大いに寄与している。コロナ禍による様々な制限が解除され、練習試合等が全面的に可能な状況になり、生徒が前向きに思いを持っており、意欲をさらに増す活動計画が求められる。 コロナ禍で自粛してきたボランティア活動を再開する動きが目立つ。地域と連携した美化活動の計画やボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、ボランティア活動に参加する生徒を増やしていきたい。 		
達成目標	① 各学校行事の内容の充実	② 部活動に参加することで自己肯定感を高める生徒の増加	③ SDGsに基づくボランティア活動への参加意識の高揚
	各行事に対する生徒の満足度 90%以上	3 学年生徒の満足度 90%以上	美化活動、環境保全活動、募金活動への全校生徒の意欲的参加
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ① 各行事の前に各種委員会の開催や生徒会便りの発行を行い、行事についての実施要項等を周知していく。また、行事後にアンケートを行うことで、生徒の達成感が高まるよう改善点を加え、次年度に活かすよう工夫する。 ② 部活動で人間性の向上を図ることの大切さを全校生徒に意識させつつ、メリハリのある取り組みを促す。3年生に、アンケートで部活動に対する意識調査を行い、結果を各部顧問に知らせ、前向きになれるよう支援活動に生かす。 ③ ボランティア推進委員会を中心に、SDGsを意識したボランティア活動のポスターの掲示や放送などを通して、全校生徒に積極的な参加を呼びかけるとともに、ボランティア後の記録や感想を残すなど振り返りの機会を設ける。 		

令和5年度 氷見高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（情報発信及び家庭との連携）	
重点課題	適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携を図るために、P T A活動への積極的な参加を呼びかけている。 P T A定期総会の実施…昨年度まで、総会への参加保護者数は、25.9%とコロナ感染症が減少に移行しても以前の状態には戻っていない現状である。一方、3年専門学科研修会74.1%、3年普通科研修会84.5%とコロナ禍にあっても3学年P T A研修会のニーズは高く、参加率は増加している。 P T Aと生徒の懇談会の開催…令和元年度より開催を継続している。昨年度も2回の懇談会を実施し、学校生活や部活動に必要な物品などの要望について話し合い、より充実した学校生活を送ることができるよう予算内で優先順位を協議し整備している。 P T A会報「ゆづるは」の発行…広報委員により年2回の発行を継続している。体育大会や氷高祭などの学校行事、授業の様子や部活動などの様子を紙面を通じて発信している。 学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール(安心安全メール)」への登録を保護者に呼びかけている。保護者の「氷高ほっとメール」登録率は高い水準（昨年度は97.1%）で安定している。 	
達成目標	<p>① 新型コロナ対策の行動制限が緩和されていく中で、総会への参加を促す企画の立案、実現。各行事の情報の発信。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期総会の内容の整理、時間短縮により、有効な時間の活用。 家庭や親子関係などの悩みに答えられる講演内容を精選、提供。 各行事の案内や様子をHPやメールでの発信。P T A会報「ゆづるは」のHP掲載。 参加できなかった保護者に対し、資料の配付にとどまらず、意見や要望の受付窓口を用意。 	<p>② 「氷高ほっとメール」の保護者満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大いに満足している」「概ね満足している」を合わせて90%以上。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 定期総会の内容の整理し、時間を短縮できるよう進行を工夫する。 家庭や親子関係などの悩みに答えられる講演内容を精選し、提供する。 各行事の案内や活動報告をHPやメールで発信する。P T A会報「ゆづるは」のHP掲載を検討する。 参加できなかった保護者に対し、資料の配付にとどまらず、意見や要望の受付窓口を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 合格者説明会やP T A入会式等の機会をとらえ、「氷高ほっとメール」の利用価値が大きいことをしっかり伝え、保護者の登録を促す。 「氷高ほっとメール」の登録をしても設定の不備等により不達の保護者には生徒を通じて案内をする。 1学期末に保護者対象に匿名アンケートを実施し、満足度および要望等を集約するとともに、要望の反映に努める。 3学期中にもう一度同様のアンケートを実施し、結果を集約する。

